



“そなえ”が未来を守る。URが防災力を高めるガイドブック〈プレ版〉を初公開
～自助力・共助力の向上による、災害に強い団地づくりを目指して～

独立行政法人都市再生機構（本社：神奈川県、理事長：石田 優、以下「UR都市機構」）は、一般社団法人マンション防災協会、株式会社のちとぶんか社及び株式会社URコミュニティの協力を得て、UR賃貸住宅にお住まいのみなさまが日頃からできる地震・水害に向けた“そなえ”について、ガイドブック〈プレ版〉を制作しました。

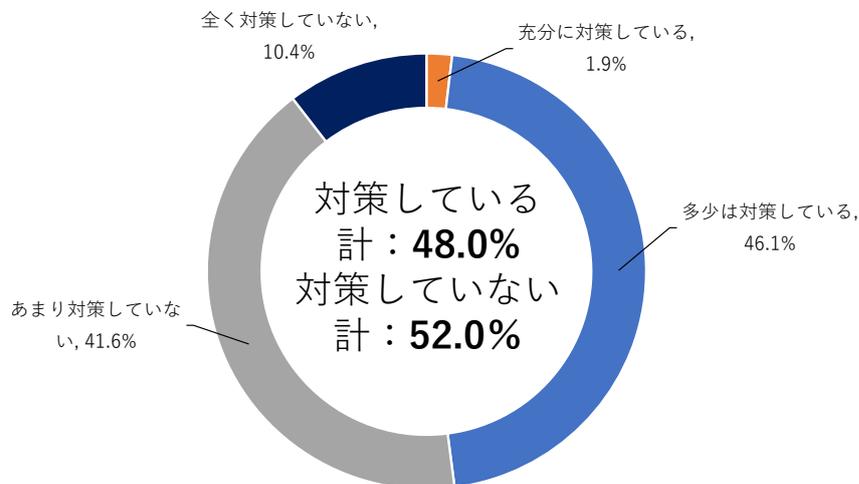
平成7年に起きた阪神・淡路大震災以降、「公助の限界」が広く認識されるようになりました。災害発生時には、行政機関やUR関係者がすぐに地域や団地に駆け付けることができないケースも想定されるため、平時からお住まいの方一人ひとりが「自助」、そして地域にお住まいの方同士が「共助」の意識を持って備えることが重要とされています。

一方、UR都市機構は、令和6年11月にUR賃貸住宅にお住まいの方を対象に防災に関するアンケートを実施したところ、以下のような結果を得ました。

居住者の防災対策状況（％）

(N=14,664)

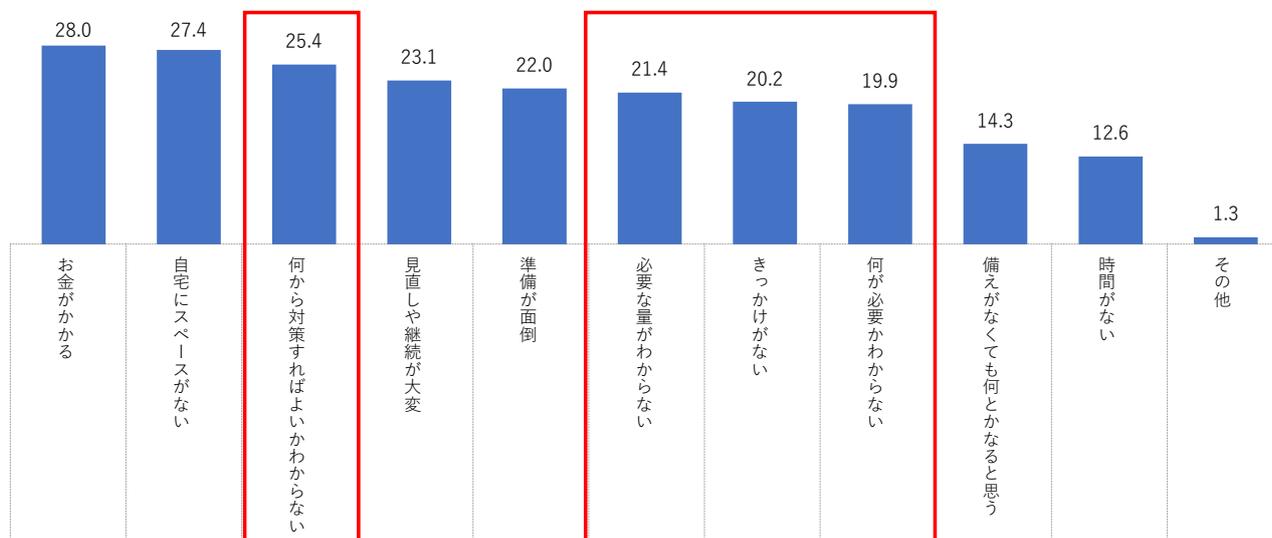
Q ご自宅では防災対策について、どの程度行っていますか。あてはまるものをお答えください。



対策していない理由 (%)

(N=7,632) (複数選択)

Q 前問で「あまり対策していない」・「全く対策していない」と回答された方にお聞きます。対策をしていない理由についてあてはまるものをすべてお答えください。



災害への対策をしていない理由として費用やスペースの他に、「何から対策すればよいかわからない」などが挙げられている現状を踏まえ、今般、UR賃貸住宅にお住まいのみなさまが日頃から“そなえ”を行い、災害を乗り越える自助力・共助力を身につけていただくために、ガイドブック〈プレ版〉(全12ページ)をつくり「防災週間」(8月30日～9月5日)に合わせて公表することとしました(本記者発表の次頁以降のガイドブック〈プレ版〉をご覧ください)。

今後、“そなえ”のガイドブック〈プレ版〉を活用し、令和7年10月から段階的にUR賃貸住宅に赴き、お住まいのみなさまへ在宅避難を基軸とした自助・共助における“そなえ”を伝える啓発活動(以下「防災講演」)に取り組み、災害に強い団地の形成を目指します。

さらに、防災講演を通じお住まいのみなさまや地域関係者のご意見を伺いながらガイドブック〈プレ版〉を改訂し、令和8年度中に改めて公表するとともに、約70万戸のUR賃貸住宅全戸に配布する予定です。

現在予定されている防災関連イベントは以下URLに記載のとおりです。今後、段階的に体制が整い次第、これらのイベントの一部を活用しながら、防災講演の実施を進めていく予定です。

<防災関連イベント> https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/welfare/index.html

<本件に関するお問い合わせ先>

UR都市機構

広報室 広報課 担当 古檜山 TEL:045-650-0887

住宅経営部 業務収納課 担当 大谷 TEL:045-650-0449

UR 都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・暮らしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



UR 都市機構は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

地震・水害 に向けた

そなえ

のガイドブック

1995年に発生した阪神・淡路大震災や
2011年に発生した東日本大震災をはじめ、
近年の大規模災害において浮き彫りとなった「**公助**」の限界。
発災直後は「**自助**」と「**共助**」がなによりも大切です。
日頃からしつかり“そなえ”をして、災害を乗り越える
自助力・共助力を身に付けて欲しい。
そのような思いで制作した本ガイドブックを
お住まいの皆様にお届けします。

自助…まず自分自身の身の安全を守ること。

共助…地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。

公助…市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助。

出典：総務省消防庁「防災・危機管理eカレッジ」
<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/>

なぜ“そなえ”が大切なのか？

災害大国、日本。

日本は、位置・地形・地質・気象などの自然的条件から災害が発生しやすい国土です。

特に、近い将来に発生する可能性が指摘されている大地震や、近年被害が甚大化している水害への“そなえ”が大切です。

< 地震 >

今後30年以内に、
南海トラフや首都直下で
大地震（マグニチュード7以上）が
起きる可能性が非常に高い！

< 水害 >

地球温暖化や気候変動の
影響に伴い、局地的大雨や
線状降水帯での大雨など、
水害リスクが増加！

発災直後は自助と共助が重要！

災害発生時には公的機関の支援が迅速に行われられない可能性があります。

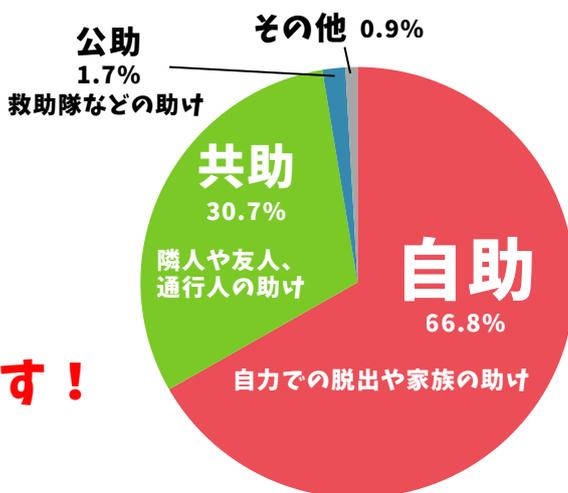
また、UR職員・URコミュニティ社員などのUR関係者も、すぐに現場に駆け付けられるとは限りません。

だからこそ、発災直後は「自助」と「共助」が重要になります！

※ 阪神・淡路大震災では、救助主体の90%以上が「自助」「共助」によるものでした。（参考：右グラフ）

※ 「自助」「共助」の重要性については、防災白書や横浜市の考え方を参考に記載しました。

（参考）阪神・淡路大震災における
生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等



出典：平成26年版防災白書 図表2
「阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等」を基に作成

本ガイドブックでは、災害時の自助力&共助力を高めるための、「日頃からできる“そなえ”」をまとめています。
ガイドブックをよく読んで、事前の“そなえ”を万全にしましょう！

地震の“そなえ”篇
P3～

水害の“そなえ”篇
P10～

地震の“そなえ”【自助】

災害時、なによりも大切なのが「自助」。

自身や家族の安全確保を最優先に行動しましょう。家族や大切な人との災害時の連絡方法についても、事前に相談しておくことが重要です。

また、大地震が発生した際、自宅に大きな被害がない場合は

「在宅避難（自宅で避難生活を送ること）」が推奨されています。

在宅避難に向けて、“そなえ”を万全にしましょう。

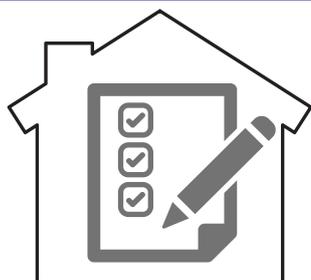
あなたの家の中は、在宅避難に対応できる状況に
なっているでしょうか？

日頃からいざという時を想像して、

“そなえ”を「当たり前」にしていきましょう！

在宅避難に向けた3つの“そなえ”

1



室内の安全性を チェックしよう

室内の安全性は
十分だろうか。
命を守るためにも、
在宅避難を続けるためにも、
室内の安全性はとても重要。
室内の安全性を
チェックしよう。
(→P4)

2



備蓄品を 確認しよう

電気・ガス・水道が
止まってしまった時、
生活できるだろうか。
備蓄品の数は十分だろうか。
在宅避難生活を送るための
十分な備蓄品を
事前に準備しよう。
(→P5)

3



携帯トイレを 使ってみよう

災害時、問題になるのが
「トイレ」。携帯トイレは
持っているだろうか。また、
使ったことはあるだろうか。
いざという時に混乱しない
よう、日頃から使って
慣れておこう。
(→P6)

※ UR賃貸住宅は耐震基準で求められている耐震性が確保されており、
阪神・淡路大震災、東日本大震災などの大地震時にも、大きな被害を受けませんでした。

(参考)UR都市機構ホームページ「UR賃貸住宅の耐震性について」

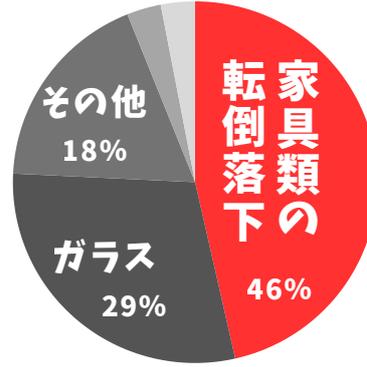
https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/chintai-taishin/chintai_001.html





室内の安全性をチェックしよう！

実は、地震による怪我の原因の第1位は「家具類の転倒落下」。家具転倒防止対策をしっかりと行って、命を守りましょう！



怪我の原因
第1位！

出典：日本建築学会
「阪神・淡路大震災
住宅内部被害調査報告書」
内部被害による怪我の原因

また、家の中に物が散乱すると、自宅での避難生活が困難になります。日頃から身の回りを整理して、家の中の安全を確保しましょう。



写真：2018年6月18日 大阪北部地震被災者より提供

室内の危険個所をチェック！ 4つの「ない」を目指そう！

② 落ちない

高い所に物を置かない

③ 割れない

高い所に割れ物を置かない

扉に開放防止金具等を取り付ける

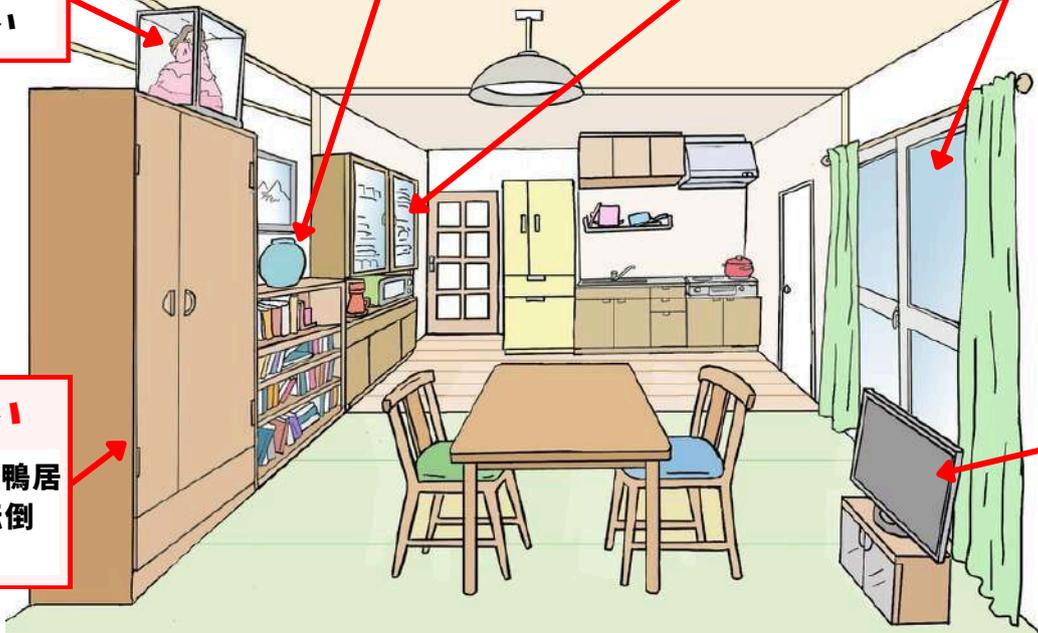
ガラス飛散防止フィルムを貼る

① 倒れない

突っ張り棒や付鴨居等を使用して転倒防止対策をする

④ 動かない

粘着マット等で固定する



※UR賃貸住宅では、家具転倒防止対策における工作物等設置の模様替基準を定めています。詳細は管理サービス事務所や住まいセンターにお気軽にご相談ください。

(参考)UR都市機構「住まいのしおり」

https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/sumainoshiori/lrmhph000000htlk-att/202503_jp55-57.pdf





備蓄品を確認しよう

災害時には「物流停止による物資供給の滞り」、「ライフライン(電気・ガス・水道)の停止」が起こる可能性があります。エレベーターも止まり、外に出ることが困難になることも。そのような状況下でも在宅避難生活を送れるよう、備蓄品を準備しておきましょう！

基本の備蓄品

(最低3日分、できれば7日分！)

食料品

1人1日3食

水

1人1日3L
(飲料水+生活水)

携帯トイレ

1人1日5回

(※上記はあくまで目安量です。)



各ライフラインが止まった時を想像して、自分に必要なものを準備しよう！

電気が止まったら？

夜真っ暗になる！

➡ 懐中電灯やLEDランタンを準備！



テレビがつかない！

➡ 手巻き式のラジオを準備！



ガスが止まったら？

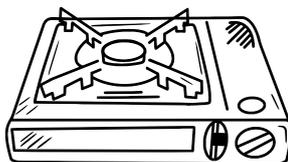
お風呂に入れない！

➡ ドライシャンプーや汗拭きシートを準備！



料理ができない！

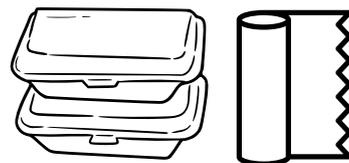
➡ カセットコンロ、ガスボンベを準備！



水道が止まったら？

食器が洗えない！

➡ 使い捨て容器やラップを準備！



歯が磨けない！

➡ 歯磨きシートや液体歯磨きを準備！



最終ページに【在宅避難用備蓄品リスト】があります。リストも活用して、自分に合わせた備蓄品を準備しましょう。



携帯トイレを使ってみよう

災害時は断水によりトイレの水が流せなくなったり、排水管の破損により漏水や逆流などのトラブルが生じたりなど、**自宅のトイレが使用できなくなる場合があります。**
日頃から携帯トイレを備蓄し、実際に使ってみましょう。

携帯トイレの使い方

1



ポリ袋を便器にかぶせる

便器内の水で携帯トイレの袋が濡れるのを防ぐ

2



便座の上から携帯トイレ設置

凝固剤を入れる
(タイミングは製品により異なる)

3



用を足す

4



臭いが漏れないようにしっかり結ぶ

災害時のゴミ回収はすぐに来ない

ポイント トイレの我慢は禁物！

「携帯トイレの備蓄が少ない」「トイレが汚れていて使いたくない」等の理由で、トイレを我慢したり、水分摂取を控えたりしてしまい、膀胱炎や脱水症状などにつながってしまうケースもあります。
災害時にも「普段通り」トイレに行けるよう、携帯トイレを多めに備蓄しておくとともに、**日頃から使用して慣れておくことが大切です。**

ポイント 汚物処理はどうする？

発災直後は自治体などのゴミの収集も遅れてしまうので、しっかり袋を結んでまとめておき、ゴミの収集などが始まったら、自治体の指定にあわせて捨てるようにして下さい。

地震の“そなえ”【共助】

災害時は、自分の力だけでは乗り越えられないこともあります。
そんな時に大切なのが、「共助」。

日頃から隣近所や地域の方々とゆるやかにつながり、
いざという時に助け合える関係性をつくりましょう！

1



挨拶しよう

助け合いのためにも、まずは挨拶から。
顔が見える関係が、
いざという時の命を救う。
まずは明るい挨拶を始めよう。

2



地域のイベントに参加してみよう

地域で行われている
様々なイベントに参加してみよう。
一緒に楽しい時間を過ごして、
地域の人々と顔の見える関係に
なることが大切！

3



地域の防災活動に参加してみよう

地域の防災活動や訓練は、
地域のゆるやかな
つながりを作ることに大きく役立つ。
防災活動に参加して、
関係性を築いていこう。

4



防災について話し合ってみよう

自分がやっている“そなえ”や
災害時の不安について、
みんなで話し合ってみよう。
会話の中で見つけた気づきや発見を
日頃の“そなえ”に活かしていこう。

地震の“そなえ”【共助】

様々な災害現場で、「地域のつながり」が人の命を救っています。隣近所や地域と日頃からゆるやかなつながりをつくり、災害時に助け合える関係を構築しましょう。

事例紹介

東日本大震災で激しい津波に見舞われた地域では、日頃から築かれていた共助体制の成果が発揮され、住民のほとんどが無事に避難できた、という事例があります。日頃から地域や学校で連携した防災教育に取り組み、合同訓練などを通じて地域ぐるみの助け合いが根付いた地域では、実際の避難時には中学生が小学生の手を引いて避難を誘導したり、慌てる子どもを落ち着かせながら高台へと導いたりする姿が見られました。また、高齢者に声をかけて避難を支援する場面もあったといえます。これらの行動・結果は、日頃から培われた地域での防災教育と助け合いの精神が実践された事例であり、共助の大切さを物語っています。

体験談

日常の挨拶が、災害時の心を温めた。

日頃から挨拶を交わしていた近所のおばちゃん。地震直後、パニック状態に陥っていた私の心を落ち着かせてくれたのは、「大丈夫？」と気にかけてくれた、おばちゃんの見慣れた顔と聞き覚えのある優しい声でした。近所のおばちゃんがくれたその一言が、深い安心感をくれました。

(阪神・淡路大震災 当時小学2年生女性 of 体験談)

大地震が発生したら…

初期行動を確認しよう

1. なによりもまず、自身の安全確保！

- ・落下物などから頭を守る
- ・火の元の確認
- ・戸を開け出入口を確保
(机の下にもぐる／ヘルメットをかぶる など)



2. 家族や大切な人との安否確認

- ・事前に決めていた連絡方法で連絡を取りましょう
- ・自身の無事を伝えましょう

※災害時は通常の通信手段が使いにくくなります。複数の連絡手段を事前に知っておきましょう。

① 災害用伝言ダイヤル **171**

② 災害用伝言版 **web171** or **各種携帯キャリア**

使い方は下記をご参照ください。

(参照) 総務省ホームページ「災害用伝言サービス」

http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/net_anzen/hijyo/dengon.html



3. 通電火災の防止

地震の影響で停電が起きた場合は、電気復旧時の「通電火災」を避けるため、

- ①ブレーカーを落とす
 - ②トイレや家電のコンセントを抜いておく
- ことを徹底しましょう！

自宅に被害が及び、自宅にいられない時は…

基本的には在宅避難が推奨されていますが、万が一自宅に被害が及び自宅にいられない時は、**近隣の避難所に避難**しましょう。

被害状況を記録しておこう

被害状況によって、国や市区町村から各種支援や補償を受けられる場合があります。自宅に被害が出た場合は、被害状況を写真で記録しておきましょう。

ポイント ガスの復旧方法

UR賃貸住宅では、震度5相当以上の地震発生などの非常時には安全装置が作動し、マイコンメーターがガスを遮断します。安全確認が取れた際は下記手順に沿って復帰作業を行いましょう。



水害の“そなえ”

水害から身を守るためには、

「早めの避難」が原則です！

水害は発生する前から気象情報などを確認することで、事前に対策をとることができます。下記1～3の“そなえ”を日頃から準備しておくとともに、被害が発生する危険性がある時は、早めに避難しましょう。

“そなえ”1：水害時特有の防災グッズ

地震用の備蓄品に加え、水害時には下記の防災グッズが必要になります。住戸が浸水する恐れがある場合は下記防災グッズや自身に必要な備蓄品を防災リュックに入れて、一時的に避難場所へ向かいましょう。

※両手が使える状態で安全に行動するため、リュックを使用しましょう。



レインコート

水害時の必需品。避難時には手が空くように、傘ではなくレインコートがおすすめ。蛍光色など、**目立つ色**を身につけましょう。

着替え

服が濡れたままだと、体力が奪われます。多めの着替えを用意しましょう。

履物

避難時は長靴ではなく、広く足を守ることができる登山靴などの**滑りにくく安全な靴**を履きましょう。

防寒具

体を冷やさないようにしましょう。(例)厚手の防水コート／カイロ など。

“そなえ”2：ハザードマップの確認



この機会に、自宅周辺のハザードマップを確認しましょう！手元にない場合は、各市区町村のホームページでご覧いただけるほか、行政窓口でも受け取ることが可能です。

ポイント ハザードマップのここを見る！

- ・ 自宅の場所
- ・ 自宅や周辺の被害想定
- ・ 避難する際の方角 / 場所 / ルート

これらの情報は家族で共有するとともに、実際に避難経路を歩いてみましょう！



出典：葛飾区「荒川・中川・江戸川洪水ハザードマップ」

水害の“そなえ”

“そなえ”3：避難場所の検討

水害時の主な避難には下記3種類があります。
避難開始するタイミングや状況によって、最適な避難方法を選びましょう。

縁故避難

災害の危険性が低い
親戚や友人の家に
事前に避難すること



水平避難

可能な限り災害の
発生場所から遠くへと
避難すること



垂直避難

自宅の2階や近隣の建物の
上層階など、高いところ
に避難すること



ポイント

水害時の避難基準

洪水・浸水が起きてから避難するのでは手遅れです。
市区町村や気象庁などが発表する河川水位や雨の情報、
警戒レベルを参考に**自主的** & **早め**の避難をしましょう！

災害警戒レベル

警戒レベル	新たな避難情報等
5	緊急安全確保 （災害発生又は切迫）
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~	
4	避難指示 （災害のおそれ高い）
3	高齢者等避難 （災害のおそれあり）
2	大雨・洪水・高潮注意報 （気象庁）
1	早期注意情報 （気象庁）

本来は避難が  
完了している状態。  
ただちに身の安全確保を！

全員ただちに避難！

高齢者等時間がかかる  
方は早めに避難！

出典：内閣府/消防庁作成  
「警戒レベルに関するチラシ」

情報を見逃して逃げ遅れている方が周りにもいるかもしれません。  
避難する際は大声で周囲に呼びかけながら避難しましょう！

# 付録：在宅避難用備蓄品リスト

【目安量】

食料品

1人1日3食

水

1人1日3L  
(飲料水+生活水)

携帯トイレ

1人1日5回

【備蓄量】

3食×世帯人数×日数

|| (3~7日分)

食分

3L×世帯人数×日数

|| (3~7日分)

L

5回×世帯人数×日数

|| (3~7日分)

回分

生活用品

- ゴミ袋／ポリ袋(大きめが便利)
- 乾電池
- 懐中電灯
- モバイルバッテリー
- 充電式ラジオ
- カセットコンロ・ボンベ
- 使い捨てカイロ
- ライター
- 救急箱
- 給水用タンク

個人の必需品

- 常備薬
- 予備の眼鏡やコンタクトレンズ
- アレルギー対応食や刻み食  
など

衛生用品

- マスク
- 汗拭きシート
- 生理用品
- 歯磨きシートや液体歯磨き
- ドライシャンプー

嗜好品

- 好きなお菓子や本など

より詳しい情報は下記をご参照ください。

- ・日本赤十字社  
「非常時の持ち出し品・備蓄品チェックリスト」

<https://www.jrc.or.jp/chapter/tokyo/about/topics/checklist.html>



- ・農林水産省  
「災害時に備えた食品ストックガイド」

<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/guidebook/pdf/guidebook-3.pdf>



<地震・水害に向けた“そなえ”のガイドブック> プレ版

発行者：独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）

制作協力：株式会社URコミュニティ／一般社団法人マンション防災協会（MALCA）／株式会社いのちとぶんが社

プレ版 発行日：2025年8月

— ゆるやかに、くらしつなげる。 —



# DANCHIで“そなえ”てつながろう！

～自助力・共助力の向上による、災害に強い団地の形成に取り組めます～

---

令和7年8月

UR都市機構

# DANCHIにおける災害時の“そなえ”とは…

- UR賃貸住宅では、災害時において在宅避難が基軸になるという前提のもと、“そなえ”として、**自助・共助**が重要であると考えています。
- 居住者ご自身（自助）や近隣住民同士（共助）の力で災害を乗り越えられるよう、事前にやっておくべき“そなえ”について、ガイドブック〈プレ版〉を活用した啓発活動を行い、**防災意識の向上と行動変容につながる**ことを目指します。
- 様々なイベントを通して個人と地域の交流を図り、**多様な世代がゆるやかにつながる**ことを目指します。

事前防災を  
知る

挨拶で  
つながる

地域防災活動へ  
参加する



# 防災イベント一覧①

イベント名	概要	連携先	団地	開催日
AR防災訓練	AR（拡張現実）を用いた消火訓練と煙避難訓練をメインに防災資機材（炊き出しくん）の使用訓練を兼ねた豚汁作成を行い、参加者に提供します。外国人技能実習生が多く住まう団地であり、企業に声がけし多くの外国人の参加も目指します。	団地にお住まいの方	花川中央 （北海道石狩市）	9月6日（土） 10時～12時
大谷田一丁目団地防災イベント（仮）	団地内防災行事に合わせて、 <b>自助・共助</b> をテーマとした、防災講座を実施します。太鼓の演奏や煙体験等も予定しています。	自治会、 団地内事業者	大谷田一丁目 （足立区大谷田）	9月7日（日）
防災ワークショップ	UR賃貸住宅にお住まいのお客様の防災意識向上を目的とした <b>防災ワークショップ</b> を実施します。近々、日本において高確率で発生するとされている大規模地震や、避難所で役立つ技術についてご説明いただき、参加者に体験して頂きます。	日本赤十字社 東京都支部	高島平 （板橋区高島平）	9月8日（月） 13時30分～15時
東日本 賃貸住 宅本部 こんなときどうする？ パパとママのための防災 講座	災害時の危険箇所や身近な防災資源について、またお子さんと一緒にの避難生活について「 <b>ママ防災士</b> 」として活躍されている講師の方に教えていただきます。他にも非常食の試食や避難所で使用するパーテーションの展示、防災グッズのお土産付きと盛りだくさんな内容です！	NPO法人 Mitakaみんなの防災	新川・島屋敷通り （東京都三鷹市）	9月11日（木） 10時30分～12時
花畑ささえあい食堂	「食を通じて集まれる」「楽しく防災を語り合える」をテーマに、 <b>地域食堂</b> を実施。子ども（18歳以下）無料、大人200円。お子様からご高齢者までどなたでもご参加いただけます！（整理券配布、食数に限りがございます）	花畑ささえあいプロジェクト 協議会	花畑 （足立区花畑）	9月13日（土） 12月13日（土）
秋の防災フェア	団地自主防災会と連携し春と秋の2回防災のイベントを開催。秋はAR（拡張現実）を用いた消火訓練と煙避難訓練をメインにし、体験後防災資機材（炊き出しくん）の使用訓練を兼ねた豚汁作成を行い、参加者に提供します。	団地にお住まいの方	五輪 （札幌市南区）	9月20日（土） 10時～12時
防災訓練（仮）	<b>起震車</b> による地震の揺れの体験。クイズ形式の防災ワークショップや新聞で作る災害スリッパづくりや防災グッズの展示を行います。	団地及び近隣に お住まいの方	シャレール荻窪 （杉並区荻窪）	9月27日（土） 10時～12時

# 防災イベント一覧②

イベント名	概要	連携先	団地	開催日
防災学習	前半はワークショップ、後半は <b>ボードゲーム</b> を通して、居住者の防災への関心と理解を深めて頂きます。ワークショップは家にあるものを活用して作れる <b>防災グッズを製作</b> します。	公益財団法人 市民防災研究所	青戸第一 (葛飾区青戸)	9月30日(火)
鶴川ダンチホリデイVol.5	<b>国土舘大学防災・救急救助総合研究所</b> と連携し、防災を身近にとらえられるようなコンテンツを多数用意する予定です。	国土舘大学、 団地及び近隣に お住まいの方	鶴川 (東京都町田市)	10月頃(実施日未定)
AR防災訓練	<b>AR(拡張現実)</b> 技術を活用し、よりリアルで安全な防災体験を行います。参加者は実際の現場さながらの消火活動や煙避難を疑似体験。消火訓練と煙避難訓練を行います。	団地にお住まいの方	新木の花 (札幌市豊平区)	10月4日(土) 10時~12時
防災訓練	団地自治会と合同開催。「 <b>防災魚釣りゲーム</b> 」「 <b>水リュック体験</b> 」「 <b>団地別防災通信の配布</b> 」を行い、実際の災害時に役立つ知識と行動力を身につけることができます。	団地にお住まいの方	南六郷二丁目団地 (大田区南六郷)	10月5日(日) 9時~11時
東日本 賃貸住 宅本部	団地自治会の防災訓練(安否確認)と連携し、公園内かまどを使用したり、防災設備を確認します。また消防署員を招いての <b>水消火器、煙避難訓練</b> 等を行います。その他ワークショップ、スマホ教室を実施することで、参加者の防災意識の向上を目指します。	自治会、 日本赤十字社神奈川県 支部、 消防庁、 民間事業者	善行 (神奈川県藤沢市)	10月11日(土)
地域連携防災イベント	昨年度に引き続き、地域関係者と防災イベント開催。 <b>「防災リュックを作ろう」「起震車」「煙中体験」「消火器体験」「防災グッズを試してみよう」</b> 等を行います！	消防署、自治会、松原団 地見守りネットワーク、社協、 民生委員、包括、ミラトン、 埼玉りそな銀行等	コンフォール松原 (埼玉県草加市)	10月18日(土) 13時~16時
地域連携防災イベント	団地近接の高等支援学校と一緒に取り組む防災企画。 <b>AR防災訓練</b> 、防災非常食の試食会、災害対策医薬品供給車両(モバイルファーマシー)の見学・体験等を生徒と団地住民と一緒に体験します(開催場所は学校体育館)。	団地にお住まいの方 近接の高等支援学校生徒	五輪 (札幌市南区)	10月21日(火) 9時~11時40分 10月27日(月) 9時55分~12時35分

# 防災イベント一覧③

	イベント名	概要	連携先	団地	開催日
	常盤平ふれあいフェア	地域関係者のつどい「ふれあいフェア」の一環として自治会や行政、大学と連携し、防災訓練や <b>VR（仮想現実）災害体験</b> コーナー等を実施します。	自治会、千葉大学、聖徳大学、松戸市	常盤平（千葉県松戸市）	10月25日（土）
	花畑ささえあいコンサート	「災害時に備える取組み」と「平時からのつながりづくり」を推進する「花畑ささえあいプロジェクト」の報告会や11月に実施予定の安否確認訓練に関する説明のあとは、皆様お楽しみの「 <b>花畑ささえあいコンサート</b> 」を開催！	花畑ささえあいプロジェクト協議会	花畑（足立区花畑）	11月予定
	原市団地防災イベント（仮）	消火訓練、AED訓練、 <b>ベランダ蹴破り体験</b> 、 <b>起震車</b> などの体験および防災講習を実施します。参加者は、災害発生時に必要な初期対応や応急措置の方法を、実際に体験しながら学ぶことができます。	自治会	原市（埼玉県上尾市）	11月3日（月・祝）予定
東日本 賃貸住 宅本部	わがまち清新	防災力の強化と多文化交流をテーマに防災の知識を習得するとともに、いざというときに助け合える <b>顔の見える関係づくり</b> を深める企画を実施します。	コーシャハイム清新自治会、清新プラザ分譲自治会、なごみの家葛西南部、東京都住宅供給公社	葛西クリーンタウン清新プラザ（江戸川区清新町）	11月8日（土） 10時～14時
	地域連携防災イベント	地域の安否確認訓練に合わせて、防災イベントを実施。 <b>非常食試食会</b> や <b>防災グッズづくり</b> 等の講習会を開催予定です。防災の知識を深めながら、いざという時に役立つ非常食を、実際に試食してみませんか。	自治会、日本赤十字社神奈川県支部	鶴が台（神奈川県茅ヶ崎市）	11月8日（土）予定
	安否確認訓練	「訓練参加シール」を団地1階集合ポストに貼っていただいた方を対象に安否確認訓練を実施します。ご参加いただく住民の方は、黄色い「 <b>無事ですバンダナ</b> 」をぶらさげます。バンダナの掲示がないお宅には、安否確認スタッフが訪問します。日頃の安否確認にもなっています。	自治会 花畑ささえあいプロジェクト協議会	花畑（足立区花畑）	11月15日（土）
	地域連携防災イベント	UR賃貸住宅及び地域にお住まいのお客様の防災意識向上を目的とした <b>防災ワークショップ</b> を実施する予定です。防災力を高め、安心・安全な地域を目指しませんか。	日本赤十字社神奈川県支部	虹ヶ丘（川崎市麻生区）	11月中旬予定

# 防災イベント一覧④

	イベント名	概要	連携先	団地	開催日
東日本 賃貸住 宅本部	パパ・ママ&じいじ・ばあばのための赤十字救急法スクール	日本赤十字社との連携により、親世代・祖父母世代向けに緊急時・災害時の <b>子どもの救急法講習会</b> を実施します。	日本赤十字社 千葉県支部	千葉幸町 (千葉市美浜区)	11月22日(土)
	防災体験学習(仮)	お住いの方々に災害発生時に必要となる備品等の使い方を体験いただける機会です。もしもの場合に備えて、きちんと使い方を知っておく事が大切です!	自治会、連コミ等	狭山台 (埼玉県狭山市)	11月23日(日)
中部 支社	尾上フェスタ	ジャズやショーのステージも実施予定の「尾上フェスタ」にて、「高層・団地での避難、備え」(仮)についての防災講座を開催します。また一角には、「 <b>防災トイレの使い方講座</b> 」や、「 <b>消火器体験</b> 」ができるブースを設けますので、楽しく、実践的な知識を身につけることができます。	名古屋きた災害ボランティアネットワーク、JSIほか	尾上団地 (名古屋市北区)	10月3日(金)
	唐竹広場地域防災フェスタ	団地を含む地域住民の防災意識の向上、団地内外の交流、そして団地に多くお住まいの <b>外国人のみなさまとの共生</b> のきっかけづくりを目的としたイベントです。お子様から高齢者、そして外国人の方も楽しく学べるよう、「防災大声選手権」、「防災クイズ」、「炊き出し」、「 <b>防災専門家による防災講座</b> 」等様々なコンテンツを予定しています。	豊明市ほか	豊明団地 (愛知県豊明市)	11月30日(日)
西日本 支社	防災講座	頻発する地震や台風、大雨による自然災害に対する心構え等を <b>防災士の講師</b> をお呼びし、講座を行っていただいたり、団地にお住まいの方同士での意見交換を実施します。	自治会	泉北住まいセンター管轄 の複数団地予定	未定
	防災イベント	冬に増加する火災事故に備え、地域の消防をお呼びし、団地にお住まいの方を対象に消火器を用いた訓練や <b>蹴破り体験</b> 等火災発生時の防災について学ぶことができます。	団地にお住まいの方	膳所公園団地 (滋賀県大津市)	未定 秋頃予定
	防災(防犯)イベント	冬に増加する火災事故に備え、地域の消防をお呼びし、団地にお住まいの方を対象に <b>消火器を用いた訓練</b> や <b>AED使用体験</b> 等火災発生時の防災について学ぶことができます。	団地にお住まいの方	石山団地 (滋賀県大津市)	未定 秋頃予定

# 防災イベント一覧⑤

イベント名	概要	連携先	団地等	開催日
防災時の備えと対応 防災講座	地震や台風などの自然災害が多発しています。もしもの時に、 <b>落ちて行動できるよう</b> 防災について楽しく学びませんか？ (吹田の防災～地震編～、学ぼう！災害時の対応と日頃の備え、災害時要援護者支援について)	吹田市総務部危機管理室、吹田市福祉総務室、片山地域包括支援センター	片山公園 (大阪府吹田市)	9月16日(火) 14時～16時
防災イベント(出展)	<b>阪神・淡路大震災から30年を迎え</b> 、地元防災組織からの参加要望もあり、HAT神戸地区で毎年秋に開催されている総合防災訓練に出展。災害テントの設営や、子どもたちが楽しく学べる防災すごろく、電気自動車による給電等を実施します。	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター ふれあいのまちづくり協議会)	HAT神戸・脇の浜団地 HAT神戸・灘の浜団地 なぎさ公園 (神戸市中央区・灘区)	9月20日(土) 10時～
健康生活支援講習	災害時の避難生活に役立つ知識や避難生活の際にできること(リラクゼーションの体験・ <b>新聞紙で作る足カバ</b> の制作等)を学ぶことができます。	団地にお住まいの方	壬生坊城第2団地 (京都市中京区)	9月30日(火)
西日本 支社 防災ワークショップ(仮)	地震に備えてどういったものが必要なかの知識を持って頂くために、実物を並べ使い方等をお伝えします！ 団地で <b>安全安心</b> に暮らして頂く一助となることを目的としています。	地域関係者	新多聞団地 (神戸市垂水区)	10/15(水) 午前中2時間
多聞台フェスタ	団地の方だけでなく、周辺地域の方も参加頂けるイベントです。飲食や <b>警察音楽隊の演奏</b> 等、多様なコンテンツの中で、防災意識の向上を目的とし、消火器体験ブースや神戸市防災課より防災関連のパネルをお借りし、展示します。 地域の方に楽しみながら防災知識を学ぶことができます。	地域関係者	多聞台団地 (神戸市垂水区)	11/24(月) 11時～15時
防災イベント	大きな地震に備えるため、必要な知識や行動を学べる「マイ防災ワークブック」や防災ガイドブックや <b>ハザードマップ</b> を使用し説明します。	地域にお住まいの方 日本総合住生活株式会社(予定)	グリーントウン榎島団地 (京都府宇治市)	11月28日(金) 13時半～15時

# 防災イベント一覧⑥

イベント名	概要	連携先	団地	開催日
楽しく学ぶ！ふしぎ実験 + 消火体験	ドライアイスを使った夏にぴったりの <b>実験</b> に合わせて、平日消防訓練に参加できない子育て世帯に管理主任が消火器の使い方をレクチャー（管理主任連携）し、親子で楽しみながらもしもの場合に備えていただきます。	—	もりつね団地 （北九州市小倉南区）	9月13日（土） 14時半～16時半
九州 支社 徳力団地消防訓練	団地住民のほか、団地内商店会、近隣学童等の地域関係者と力を合わせて避難訓練を実施。その後、地元消防による講話と <b>地震体験車への乗車</b> を通じて防災意識の向上を図ります。	自治会	徳力団地 （北九州市小倉南区）	11/8（土）
秋の防災イベント	地域関係者による出店（お餅のふるまい等）で団地内外から幅広く集客に注力し、消防による講話と <b>消防音楽隊&amp;カラーガード隊</b> による演舞で、楽しみながら防災意識の向上を図ります。	団地内施設 和才屋	金田一丁目団地 （北九州市小倉北区）	11/22（土）

# 取材お問い合わせ先

---

9 : 3 0 ~ 1 7 : 3 0 ※ 土 日 祝 は 除 く

本部・支社	電話番号	広報担当（総務課）
東日本賃貸住宅本部	<b>03-5323-2555</b>	丸田、増田、岡
中部支社	<b>052-238-9105</b>	岡本、末松
西日本支社	<b>06-4799-1231</b>	辻本
九州支社	<b>092-722-1004</b>	田上、野瀬



たくさんの笑顔でひとと暮らしを  
ゆるやかにつなぎます



An aerial photograph of a park. In the upper half, a paved walkway leads to a wooden bench where several people are sitting. To the right, a circular wooden structure with a striped pattern is visible. In the lower half, a large green lawn is the focus. Three people are sitting on blankets on the grass, and another person is standing nearby. The scene is bright and sunny, with shadows cast by trees and people.

ゆるやかに、くらしつながる。

— ゆるやかに、くらしつながる。 —

